

# 都小道研会報

## 「都小道研の活性化を目指して」

～児童と共に道徳教育を楽しむ～



吉田 友信

東京都小学校道徳教育研究会会長  
江戸川区立南小岩小学校校長

令和六年度より、松井敏前会長からバトンを受け、第四十二代会長を拝命しました吉田友信と申します。会長の重責と今後の方向性を考え、大変緊張しています。しかし、顧問・OBの皆様にご指導をいただき、役員・部長を信じて任せ、部員全体に積極的参加を喚起することで「都小道研のより一層の活性化」を目指して参る所存です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて「都小道研の活性化」という意味で、六月十七日に渋谷区立鳩森小学校で開催した「第六十二回定期総会並びに講演会」に向けた一連の取組では意義を感じました。まず本年度に入り、役員・理事が中心となり、一年間の都小道研全体の大きな事業や各部の活動について計画を立てました。その中で、都小道研の研究活動への参加

意識の高揚と事務作業の効率化をねらい、部員募集や名簿登載、定期総会の参加申込についても、各自が二次元コードを用いて行い申込方式を初めて採用しました。

当日の「定期総会」においては、冒頭に東京都教育委員会、渋谷区教育委員会、都小道研OB会のご来賓の皆様からご挨拶を賜り、会に花を添えていただきました。改めて我々の研究への意識が高まりました。

その後の「講演会」では、講師にお招きした文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官の堀田竜次先生に、本会の研究主題の重要性を強調し、新しい副主題に触れたご講演をいただきました。本講演により、研究推進への意欲がより一層高まりました。

また、本年度から徐々にダイナミックな展開が開始できるよう、感染症による活動制限等を解除し、「部員総会」を設定しました。部員同士が顔見知りとなり、各部の活動計画を伝え合うことで、各部が連携を深める上で絶好の機会となりました。

会場には、全小道研・都小道研の顧問・OB会の皆様、全小道研・都中道研会長をはじめ役員・部長・部員の多数のご参会により、熱気にあふれ、参会者一人一人の使命感も確実に高まりました。

以上のように、皆様からのご指導とご協力により、「都小道研の活性化」を目指した令和六年度の研究活動を円滑にスタートさせることができました。改めて、関係の皆様には、深く感謝申し上げます。

今後、本年度の都小道研の合言葉「研究は厳しく、人間関係は温かく」の姿勢を貫き通し、児童と教師が共に道徳教育を楽しみむための研究を各部が活性化させて参ります。引き続き、よろしくお願ひします。

来る令和七年一月二十七日には、江戸川区立南小岩小学校において「第六十二回研究発表会並びに臨時総会」を開催し、各部の代表者が検証授業や研究発表を行います。当日は、講師の堀田竜次先生に一年間の都小道研の取組についてご指導を賜ります。

令和六年度も都小道研は「道徳教育の推進並びに会員相互の研さんを図ること」を目的として、「研究は厳しく、人間関係は温かく」を合言葉として邁進して参ります。

令和六年度「道徳講演会」  
「地区理事・部長研修会」  
のご案内

日時：令和六年十月二十一日(月)  
午後三時から

(受付午後二時四十五分から)  
会場：東京都教職員研修センター  
七階七〇三研修室

令和六年度

第六十二回臨時総会

並びに研究発表会

のご案内

日時：令和七年一月二十七日(月)  
午後一時三十五分から

(受付午後一時十五分から)

会場：江戸川区立南小岩小学校

各地区の理事・部長の方々へ

本会報を区市町村教育委員会へ二部、

各小学校へ一部配布をお願いします。

発行所 東京都小学校道徳教育研究会  
事務局 江戸川区南小岩四一六一

発行者 会長 吉田 友信  
広報部長 関 祐一



講師

「よりよく生きるための基盤となる  
道徳性を養う道徳教育の推進・充実」

講師 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官  
国立教育政策研究所教育課程研究センター  
研究開発部 教育課程調査官

堀田 竜次 先生

みなさんこんにちは。今から50分間お話しさせていただきます。配布してある資料についてはあまり触れないかもしれませんが、スライドの中に紺色の帯が出てきますが配布資料には☆印がしてあります。☆印のあるスライドは配布してあると思っております。

〈研究主題〉

研究主題について事前にいただいております。我々が忘れてはならないのは道徳性を養うことです。これだけは忘れないようにしたいと思っております。その中で都小道徳研の副主題にある非認知能力というものがあるかと思っております。

昨年、都小道徳研の定期総会でお話しさせていただきました。松井前会長からお話をいただいたとき私でいいのかと思ってお引き受けした後、都小道徳研、全小道徳研の皆様によくしていただきました。一年間充実した時間でした。二年目を迎え、またこうやってお招きいただきお話しできることをうれしく思います。

昨年令和小学校では全学級で授業を行っていただきました。また、都小道徳研部員が授業をしていただきました。日々の実践的知見の見える化・共有化を図るために、都

小道徳研の方々が様々な場面で授業を公開して下さったり、道徳教育アーカイブで授業の協力をしてくださったりすることは大変ありがたいと思っております。お礼を申し上げます。

さて、今日冒頭からご挨拶して下さっている吉田会長の南小岩小で今年度、令和七年一月二十七日に研究発表会が行われることになっております。とても楽しみにしております。実践的知見の見える化・共有化を図られることになってくるのではないかなと思っております。乞うご期待で、一月に集まるのを楽しみにしております。

今申し上げましたとおり、道徳教育アーカイブを中心に文部科学省としては実践的知見の見える化・共有化を図っているところでございます。それはやはり私たちが道徳教育の目標にあるよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳教育は学校教育活動全体を通じて行うことを理解した上で進めていくことが大切であります。それを都小道徳研は全面的にテーマとして掲げて下さっており、道徳性を養うことを推進していただけることをありがたく思います。

〈道徳性〉

道徳性とは、解説の総則編に三つ示されており、私は最近特にこの三つ目の

ところを強調してお話しさせていただいております。それはなぜか、人間らしいよさであり、道徳的価値は一人一人の内面において統合されたものであること、一つの内容項目だけを手掛かりに学ぶだけではなく、たくさん内容項目を手掛かりに学んでいくことの重要性、そしてよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うということが三つ目に十分表れていると思っております。

学校教育の要である道徳科は、補充、深化、統合の役割を担っているということはここにいらつしやる先生方は御理解いただいておりますので先に進みます。道徳科の特質とは、これは絶対に忘れてはいけない、ということを念頭に置きながら、お話しさせていただきます。道徳科の特質とは何でしょうか。それは、内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間、つまり、子供たちが主体的に道徳性を養っていく時間ということになります。このような道徳科の学習は、人生いかに生きるべきかという生き方の問いを考えると言い換えることができます。このようなよりよく生きようとする児童の願いに応えるために、児童生徒と教師が共に考え、共に探求していくことが前提となるのです。このことを忘れずに指導を行っていく必要があると思っております。

〈道徳科の時間〉

道徳科の時間は、道徳性を養う時間で道徳性の諸様相を育てる時間、そのためにはどのような学習をすればよいか、このことについては道徳的諸価値についての理解を

基に、自己を見つめ、物事を多面的に多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習、これをしっかりとおさえておく必要があります。考え、議論する道徳的転換、質的充実を図る、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が求められます。子供たちが道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめることができるようにする必要があります。これについては自己を見つめる時間を取ってあげることが大事です。このような学習を通して子供たちは自己理解を深めていきます。自己の成長を実感したり、目標や課題を見つかりするのです。

〈多面的・多角的に考える〉

このことについては、多様な感じ方や考え方に接する、多様な価値観の存在を前提に考える、他者と対話したり協働したりしながら考えるということであり、これは非認知能力にもつながる話になると思っております。対話をはじめ、タブレット端末の活用も考えられます。多様な感じ方、考え方に触れることができるような授業が展開されていきます。

自己の生き方についての考えを深めることを授業の中で大切にしていたきたいです。先ほど生き方の問いを考えると申し上げましたが、それを理解して進めれば、読み取り道徳にならないと思っております。この自己の生き方についての考えを深めることは、解説の道徳科の目標の記述に、教師の立場も児童の立場も書いてあります。児童は自己の生き方についての考えを深めていくが、特にそのことを強く意識させることが重要、



教師は自己の生き方についての考えを深めることを強く意識して指導することが重要であると書かれています。このことから自己の生き方についての考えを深める場面が重要であるということが分かります。授業を参観する中で、そういった時間をとられているか、手立てがとられているかをしっかりと見ていただきたいと思います。

今までの調査官の先生方も言ってきましたが、授業の中で明確な指導の意図をもつことが大事、その上で指導方法の工夫が必要になってきます。その中にICTの活用もあります。ICTは文房具、身近にあるものとして考えてほしいと思います。

〈およげないリスさん〉

内容項目、公正、公平、社会正義です。初等教育資料五月号でも書かせていただいています。例えば公正、公平、社会正義にかかわる課題があるので道徳科の時間です。そのことについて考えさせたいとした時に、どのように教材を活用していくかなど、教師は明確な指導の意図をもって授業を構想することが大切です。子供たちが考えを深めることができる発問の構成をしっかりと考えることが必要です。発問は児童の実態をよく踏まえながら考えていく必要があります。

〈道徳教育アーカイブ〉

およげないリスさんは道徳教育アーカイブにアップされています。このおよげないリスさんがどのように構成されているかというところをお話しします。導入から展開、展開の役割演技をする前には、見る子供たちに視点をしっかりと伝えていきます。板書

では、多面的・多角的に考えることができるように、それぞれの立場について分かります。そして導入で活用したアンケートを再度取り上げ、これまでの学習を自分自身とのかかわりで考えることができるようにし、自分の考えを深めることができるようにしています。どう子供が学んでいるかを机間指導の中で確認等をするのも大切です。アーカイブは自分だったらどうするか、自分の授業ではこういう視点でアプローチできるかなど、ぜひ活用してください。今までの授業実践を全国に広めていけるようにしていきたいと思っています。

〈思考ツールの活用〉

タブレット端末などで思考ツールを使うことがありますが、思考ツールの活用は目的ではありません。ねらいとする道徳的価値に向き合うための子供たちの学習活動として活用することが大事です。チャットを使って教師の発問に子供が答える、このことについては、発言が苦手な子供には効果的かもしれません。クラスの実態をよく見極め、活用していきましょう。自己の生き方についての考えを深めることについて、タブレット端末を活用して書き込み、友達の見見も見ることができるようになる授業もご紹介します。しかし十分な配慮も必要になるケースもあるので、学級の実態に合わせて進めていく必要があります。

〈非認知能力について〉

初等中等教育分科会の幼児教育と小学校教育架け橋特別委員会がご紹介します。そこで、認知能力とは知的な力で知識・技能、

思考力等を含む、非認知能力は意欲・意志、自覚・見渡す力、人と協力する力等を含む。乳幼児期、学童期、思春期を通して育つ。認知と非認知は相互に関連し、支え合って育っていく。一つの活動の中に認知面と非認知面が必ず含まれ共育つと言われています。そういった非認知能力とは主に、意欲・意志・情動・社会性に関わる3つの要素。①自分の目標を目指して粘り強く取り組む、②そのためにやり方を調整し工夫する、③友達と同じ目標に向けて協力し合う。

②は自己調整、③は協働的な学びに関連があると考えられます。今まで実践してきたことに存分に含まれている可能性があるので、主体的・対話的で深い学びの視点から考えると①とも関連があると考えられます。つまり皆さんが道徳性を養うためにさまざまな実践を行ってきたことは大きな意味があると思います。

〈個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実〉

今までやってきたことと合わせて、ICTを取り入れて進めてください。例えば、ワークシートに書く子供もタブレットに写真する子供もいます。ワークシートを写真とって取り込むことによって学習したことをクラウド上に保存していくことができます。ポジショニング機能を使えば、自分の考えをもち、他者の考えを色や位置で確認することができます。道徳教育の要である道徳科は、補充、深化、統合の役割を担っています。だから1単位時間の学びを年間を通して積み重ねていくことが大切です。例えば、年度当初に自分の学年末にはどんな姿になっていたか、またはどんなことを

ねらって学んでいきたいかということをもつことができるようにし、タブレット端末等で記録をして、適宜振り返ることができるようになるということが考えられます。子供たちが自分で考えて自分で決めたときに振り返ることができる、いつでも振り返ることができるようにするためにどうしたらいいかというのを考えていく必要があると思います。このようにして子供たちが学びを積み重ねていくことによって主体的に道徳性を養っていくということになると思います。協働的な学びでは他者の考えを知るためにタブレット端末を活用したり、タブレット端末上で語り合ったりするというものも考えられます。これらの授業を行うためには、教師の明確な指導の意図が大事になります。個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善をしっかりと考えていかなくてははいけないと思います。

〈最後に〉

今日は道徳教育、その要である道徳科について様々な視点から意識していただいたことを話しました。

最後にお話ししたいことがあります。授業研究をしていく中で、板書や発問など指導方法の工夫が話題の中心になることがあります。その時には教師の意図を必ず聞いてください。その指導の意図を聞くことで、参観者の学びも深まります。授業者の意図をしっかりと確認してください。そしてそれぞれの実践の見える化、共有化を図り、道徳科の授業を盛り上げていってください。本日はありがとうございました。

### 研究活動報告

※各部の授業研究の詳細については都小道研ホームページをご覧ください。

#### 調査部 部長 浮ヶ谷 優美

調査部では、今年度二つの新たな取組に挑戦しました。一点目は、調査内容の刷新です。近年、児童の主体的な学びの要請が高まる中、「人としてよりよく生きる上で大切なもの」についての、児童と教師の課題意識を中心に調査しました。

一点目は、調査の電子化です。二次元コードを活用した調査の実施により、集計作業の軽減を図りました。今年度は紙と二次元コードを併用して実施しましたが、概ね電子上で回答をいただきました。集計結果がまとまり次第、都小道研のホームページに掲載いたします。調査へのご協力ありがとうございました。

#### 授業研究 【授業研究】

・九月二十七日 高木 康隆(練馬第二)  
講師：元都小道研会長 後藤 忠 先生

**研究部 部長 由良 隆**  
研究部は、道徳科の特質を踏まえたよりよい授業づくりを「深める」ことを目的としています。この目的を達成するために、研究主題に迫るべく研究を進めてまいります。

さて、その研究主題は昨年度に引き続き「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」と設定し、新たに副主題を「非認知能力の育成と道徳指導の関連」と設定しています。昨年度の研究成果と課題をもとに、今年度は道徳科における非認知能力の育成と道徳指導との関連について協議し、これを生かした指導等について研究を深めることとしました。

今年度も都小道研各部と連携を深めながら組織的な研究活動に取り組んでいきます。

#### 【授業研究】

・九月十五日 竹大 誠人(足立・島根)  
講師：元都小道研会長 田代 敏博 先生

#### 研修部 部長 土生津 静

・十月十七日 池本 純太郎(目黒・東山)  
講師：元都小道研会長 朝倉 諭美子 先生  
関東地区小学校道徳教育研究会千葉大会での提案を控えた本年、研修部では「授業実践の研修部」と「広める研修部」として、これまでに積み重ねてきた実践を生かして指導の工夫をさらに充実させるべく研究を推進していきたいと考えています。

今年度は研究主題に基づき、研究仮説を「自己と向き合い、他者と協働しながら粘り強く取り組むことで、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことができる」と設定しました。年間四回の授業研究を通して、①目標設定、②他者との協働、③自己を見つめる、の三つの視点から児童を主語にした授業と検証を行い、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う研究に取り組んでまいります。

#### 事業部 部長 山岸 史子

・七月二日 前田 康介(台東・根岸)  
・九月二十七日 倉岡 睦子(東久留米・第五)  
講師：元都小道研会長 朝倉 諭美子 先生  
・十月十七日 田中 妙子(文京・駒本)  
講師：世田谷区教育委員会 橋本 ひろみ 先生  
・十一月二十日 三崎 智(豊島・清和)  
講師：世田谷区教育委員会 橋本 ひろみ 先生

事業部は今年度の活動を進めるにあたり、授業研究を都小道研の会員以外の方にも広くご案内し、多摩地区の先生方と道徳授業について学び合う機会としたいと計画しています。道徳の授業をどのように考え展開させたら児童の学びにつながるのか、かつかめずにいる先生方も多いと思います。道徳の授業を参観していただき、日頃の疑問も含めて、ざっくばらんに一緒に話し合える場をつくりたいという事業部員の思いや願いからのチャレンジです。児童と考え、共に成長する授業づくりを多くの方と楽しめる環境づくりを目指します。

### 各部活動報告

#### 総務部 部長 宮本 知司

総務部は、都小道研全体の調整役として各部の連携を図り、それぞれの活動が円滑に進むように運営をしています。特に大きな事業の開催に際しては、都教委や全小道研との調整も行います。

- ①指導者研修会(年間十回開催)  
会長・副会長講話や各部情報交換等により、役員・理事の研鑽のために実施。
- ②第六十二回定期総会並びに講演会  
六月十七日に渋谷区鳩森小で開催。(終了後、部間の連携を意図し部員総会を実施)
- ③道徳講演会・地区理事部長研修会  
十月二十一日に東京都教職員研修センターで実施予定。(都の道徳教育の一層の充実を期し、教育庁指導部、都教職員研修センター、全小道研、都小道研OB会等と連携し、各地区の理事・部長が一堂に会して情報を交換)
- ④第六十二回臨時総会並びに研究発表会  
一月二十七日に江戸川区南小岩小で公開授業と併せて開催予定。

#### 庶務部 部長 平野 真由美

庶務部は、各案内通知の作成や関係の皆様への発送作業等、都小道研の窓口としての仕事を担っています。

令和六年六月十七日(月)に渋谷区立鳩森小学校にて、「令和六年度 東京都小学校道徳教育研究会 第六十二回 定期総会並びに講演会」を開催しました。当日は、東京都教育庁指導部、東京都教職員研修センター、渋谷区教育委員会の皆様をはじめ、全国小学校道徳教育研究会の皆様、各

#### 渉外部 部長 椿田 克之

渉外部では二つの活動を行っています。

第一は、東京都教職員研修センター「東京都教育委員会研究推進団体支援事業」に係る活動です。東京都教職員研修センターが東京都教育委員会研究推進団体の認定を受けた研究団体に対して、研究活動の活性化と研究成果普及のために「研究推進団体支援」「研究普及活動表彰」という二つの取組を行うものです。本会もこの事業に申請して支援を受けたり、本会各部の研究活動の紹介を行ったりします。

第二は東京都小学校研究会連合との連携です。都小研連では、広報誌を発行していますが、東京都小学校道徳教育研究会もこの連合の一員として、原稿を寄せています。

このように他の研究諸団体との連携・調整を図りながら、東京の教育を向上させる一団体として、研究の向上と成果の普及に努めて参ります。

#### 広報部 部長 関 祐一

広報部の役割は、東京都全体の道徳教育の充実を図るため、都小道研や各地区で行われている研究の実践を紹介したり、各種講演内容やアンケート結果などを周知したりすることです。今年度は、各部の授業研究へ取材に行き、情報をホームページに掲載したいと思っています。

各地域や各学校における道徳教育の推進の一助となるよう自身の充実を図っていきたく思いますので、情報がありましたら、ぜひ広報担当までお知らせください。よろしくお願ひします。